

16年版『介護労働者の働く意識と実態』は介護分野で現に働く労働者を対象に、その就業意識及び賃金・労働時間等の労働条件を性別、雇用形態別、業務別に加え、経験年数別、学歴別、婚姻上の地位別、生計の維持者別等に詳細に調査分析したものです。

〔調査結果の概要〕

<高卒と専門学校卒で69.2%>

介護労働者の学歴別をみると専門学校卒が35.1%、高卒が34.1%が多かった。短大以上卒は26.2%であった。また、72.5%が前職があったが、前職が福祉・医療関係の者は51.1%であった。

<勤務年数、経験年数が比較的短い労働力>

雇用形態別では、正社員が79.5%、非正社員は19.2%であったが、その勤続年数は3年未満の者が54.0%と多く、また、介護業務の経験年数で見ても3年未満の者が39.3%とやはり多かった。

<実労働時間は平均158.0時間>

11月の実労働日の平均は20.2日、実労働時間は158.0時間であった。所定労働時間より多かったと考える者は31.6%で、その超過勤務時間は平均14.2時間であった。

<「終日勤務」はしたくない者が60.8%>

「昼間以外の時間帯にも働く者」は61.8%であったが、実際の意識では、「終日勤務」は60.8%、「深夜勤務」は40.9%の者が「したくない」時間帯であった。その時間帯もサービスの提供が必要となる入所系の事業所にとっては考慮しなければならない点である。

<「働きぶり・成績による賃金格差」を希望する者51.4%>

手当・賃金について希望する内容として、「資格による賃金格差」や「精勤・皆勤手当」「早朝・夜間勤務手当」を希望する者も多かったが、「働きぶり・成績による賃金格差」を希望する者が51.4%と最も多かった。

<74.8%の者が「不安や不満がある」>

働く上で、何らかの「不安・不満がある」者は74.8%と多く、何の「不安・不満もない」者は17.2%であった。「不安・不満」で多いのは、「賃金が安い」(54.7%)、「社会的評価が低い」(29.9%)、「利用者の事故への補償」(33.3%)等であった。